米国経済・株式市場情報

パウエル発言後、再びバリュー・高配当株有利な展開に

FRBは一定程度の景気減速を受け入れてでも利上げ継続を示唆

- パウエル議長のジャクソンホールでの発言により、6月中旬以降グロース株有利の相場展開は変化し、足元ではバリュー・高配当株が有利な展開に。
- FRBは景気減速を受け入れてでも利上げ継続姿勢を示しており、当面バリュー・高配当株有利な展開が続くか。

～景気減速期に“粘り強さ”を発揮～

- 消費者心理の動向を示す消費者信頼感指数は、一般的に景気動向に連動する傾向があり、リーマンショック(2008年)やコロナ禍(2020年)など過去の景気減速期には低下しました(図表1)。2020年など過去の景気減速期には、積極的な設備投資など成長への企業活動が低調となり、グロース株は大きく下落する展開となりました。一方で、バリュー・高配当株の下落幅は比較的緩やかなものとなり、景気減速期においてのバリュー・高配当株の“粘り強さ”が意識される相場展開となりました(図表2)。

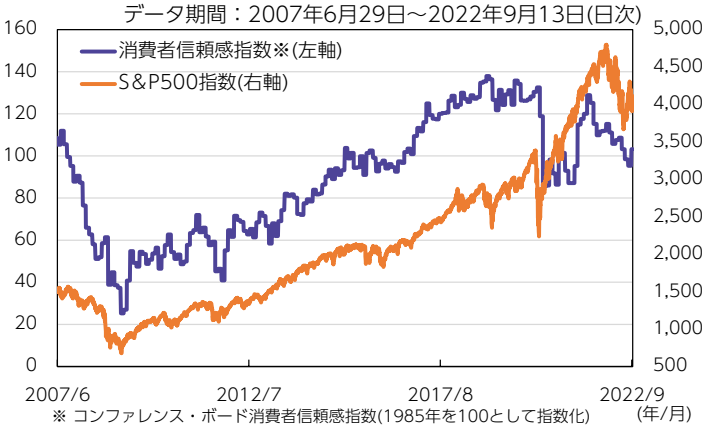
～ジャクソンホール会議で金融引締め継続を示唆～

- 大幅な利上げを受けて、インフレはピークを打ったとの見方が広がり、7月以降、FRB(米連邦準備制度理事会)は年末にかけて利上げペースを緩め、年明け以降は利上げを停止するとの見通しが大勢を占めていました。しかし、8月26日に開催された経済シンポジウム(ジャクソンホール会議)において、パウエルFRB議長は「物価安定のために(一定の景気減速を受け入れてでも)しばらくの間、引締め的な政策スタンスとなる」と述べ、現状の急速な金融引締め政策の維持を示唆しました。

～年内利上げ終了の見通しは遠のく～

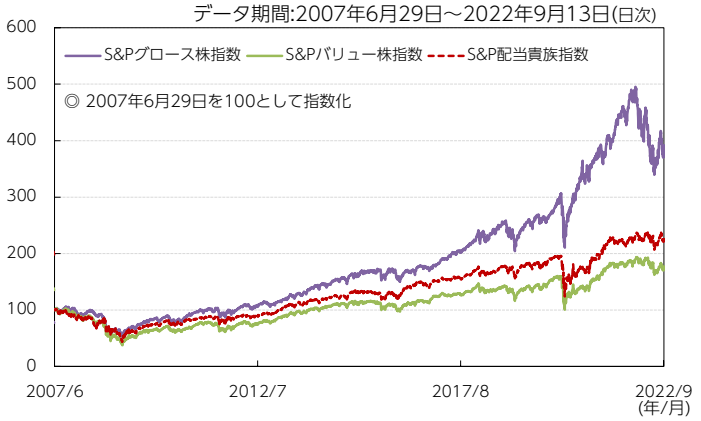
- 一定程度の景気減速を受け入れてでも、高止まりするインフレ抑制のため利上げを継続するFRBの姿勢をうけて、金利先物市場から想定される利上げ見通しでは、年末の利上げペースの緩和、年明けの利上げ停止の観測は急速にしぼんでいます。6月中旬以降、勢いを取り戻しつつあったグロース株は軟調な展開となり、企業収益を配当などに振り向ける高配当株などは、比較的緩やかな下落に止まりバリュー・高配当株有利な相場展開となっています(図表3)。FRBは利上げを継続する姿勢を示し景気減速への懸念から、当面グロース株の上値は重く、高配当株・バリュー株が有利な相場展開が続くことが想定されます。

図表1：消費者信頼感指数と米国株の推移

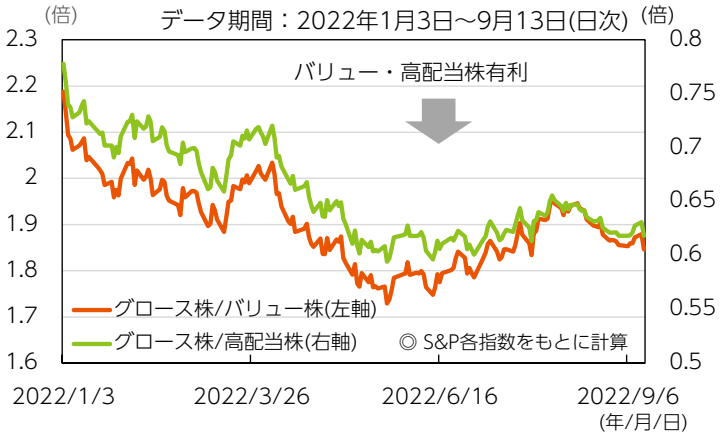


※ コンファレンス・ボード消費者信頼感指数(1985年を100として指数化)

図表2：各株価指数の推移



図表3：直近のグロース株/高配当株などの推移



出所）図表1～3はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

＜設定・運用＞

ニッセイアセットマネジメント株式会社

商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター　0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ　https://www.nam.co.jp/